



人材確保と資金調達のために 法人化した事例

法人化のきっかけ

- * 代々、露地野菜を経営。1区画が狭い農地を所有しておりコスト競争には勝てない。そこで新たな道を模索したところ、苗栽培の契約が成立。規模拡大も求められるようになった。
- * 直接のきっかけは、**人材確保と農業用ハウスの増設のための資金調達**。
- * 資本金300万円で**株式会社**を設立。



法人化後の展開

- ◎ 法人化後、社会保険制度が整備されたことから、**求人Webサイトを通じての応募が増加**。また大学や就農フェアでの採用活動もしやすくなるなど**採用の窓口や機会が広がり、正社員の雇用が容易に**。〔法人化前：パート・アルバイト10名→法人化後5年：正社員10名、パート・アルバイト15名〕
- ◎ 資金調達は**制度資金の融資限度額も引き上げられる**とともに、実績を積み増し、計数管理がきちんとできているので**地方銀行からも融資を受けられるようになった**。
- ◎ **農業用ハウスを増設し、売上げも5年で1.5倍程度まで増加**。〔法人化前：約2億円 →法人化後5年：3億円〕
- ◎ 若手の従業員が増えたので、組織の安定と強化に向けて、**従業員と年2回の個別面談を行うことで双方向のコミュニケーションを導入**。

規模拡大しても
ヒト、モノ、カネを
どうするか



POINT



◎ 定款作成・雇用条件・人材育成など法人に所属した経験がないので見当がつかない

[→ 農地所有適格法人の要件を満たすためには、定款に定める事項があります：P9]

[→ 雇用条件の前提となる就業規則の作成や人材育成については、農業経営相談所にご相談ください]

詳細はコチラ→



- ★ 取引を重ねる中で、銀行主催のマーケティングに関する**セミナーなど新たな情報を入手できるようになった**。
- ★ 法人としての**社会的責任も考えるようになり**、農地は地域の中で大事な役割があることを、消費者や地域の食育イベントで小・中学生の体験授業を通じて伝えるようになった。
- ★ **やる気のある人材を多く確保できたので**、栽培技術を磨くことや作業効率の改善について、プロジェクトチームを作り検討するなど、経営発展に注力。

経営発展と共に
社会的責任も意識



地域の複数戸が集まって 法人化した事例

法人化のきっかけ

- * 稲作経営をしているが、地域の高齢農家の離農により農地の集積が進み、今後もさらに進んでいくことを考えると、**個々の農業者の力だけでは限界。地域の雇用を増やす必要もある。**
- * 将来の**地域農業の受け皿（農地の利用権設定の客体）となる法人を設立しようと発起。**日頃から懇意にしていた農業機械の整備士と地域で多くの農家から農作業を受託していた方に相談。
- * 離農による農地の受け皿と総合的な農作業サービスを行う**株式会社**（資本金300万円）を3戸で設立。



法人化後の展開

- ◎「農作業なんでも引き受けます」をキャッチフレーズに事業を開始。〔法人化後5年で農作業受託の売上2,000万円（水管理、草刈りなどの農作業も含む）〕
- ◎ **農地の利用権設定も順調に進み**、農作業の受託だけではなく、農地の受け皿としても機能。〔法人化前：20ha→法人化後5年：100ha〕
- ◎ 法人化に伴いイメージが向上するとともに、地域に取組内容が浸透したことから、**地域での雇用の受け皿としても機能。**〔法人化後5年：正社員3名（全員地域雇用）〕

POINT

◎有志による協業経営で意識や思いを共有するには？

〔→少人数で設立する場合は、株式会社を選択することや経営内でのそれぞれの役割を明確にし、必要な事項は定款に明文化することなどが考えられます。農業経営相談所にご相談ください〕

詳細はコチラ→



- ★ 地域の元気な高齢農家には、水管理などの農作業を委託しており、**地域全体で農地を守るという機運が高まった。**
- ★ 問題が起こったときは**役員間の話し合いを徹底しており、共同経営の運営が順調に進んだ結果、規模拡大が当初の予定より進んでいる。**
- ★ 地域の安定的な雇用の場として認められており、**地域雇用も実現している。**

地域の雇用に貢献

